



教育委員会だより

「多久から発信！SDGs⑳」

「持続可能な佐賀をデザインする」

東原岸舎中央校 7年2組 中垣 彩葉

私たち東原岸舎中央校の7年生は、総合的な学習の時間で「未来の人も豊かな暮らしをするために、持続可能な佐賀をデザインしてみよう」というテーマのもと、探求学習を進めてきました。そこで改めて、佐賀県の現状や現状を改善していくための対策を知ることができました。それと同時に、今は佐賀だけの問題となつていくことが、全国や世界へと広がる可能性があることも学びました。

私のグループでは「観光地を増やしたら人口が増えて、持続可能な佐賀になるであろう」という仮説を立て、探究を進めました。仮説を検証する中で、観光地を増やしても人が増えるとは限らないことに気づき、佐賀と同じような悩みを抱えている他県の取り組みや現状を調査しました。その中で、高校を卒業してから佐賀を出る若い人たちが佐賀にとどめるために、就職先や進学先といった選択肢をつくることの大切さに気づきました。そこで私たちは、「佐賀県民だけでなく、他県からも、そして海外からも学生が集まるような特色ある大学をつくり、佐賀県内の企業と連携することで、佐賀県への定住につなげて、佐賀県の人口を増やす」という結論にたどり着きました。

私たちが住む町、多久の、そして日本や世界の持続可能性を高めるために、これからも学び続け、そして行動に移していきたいです。



連載

野の仏ギャラリー⑤⑦

四国八十八尊

東多久町通玄院

阿波・土佐・伊豫・讃岐国に所在する四国八十八箇所は、弘法大師ゆかりの巡礼地です。これらの霊場(本尊)を勧請した写しが各地に設置(安置)され、当所では境内にあります。



※写真は現存する石仏の約3割です

現存する78尊像の内訳は薬師如来19体、阿弥陀如来6体、大日如来6体、

釈迦如来4体、千手観音12体、十二面観音11体、聖(正)観音5体、馬頭観音1体、地藏菩薩6体、虚空蔵菩薩2体、文殊菩薩1体、弥勒菩薩1体、不動明王3体、毘沙門天1体です。

紀年銘は明治十八年八月、十九年、二十年、二十一年、二十二年、二十三年春と刻まれ、約5年かけて安置が完成したと考えられます。施主の住所は當寺、當駅、當(上中下)町、別府町、別府山、洪木、古賀(津)、三軒屋、柳瀬村、納所村、大工田、四下、多久原村、多久町、棕瀬村、右原、大手町、佐賀牛島町長徳寺などです。

多久市郷土資料館長 藤井伸幸

市民文芸

◆ 雨上り水溜りには「空と雲」

久々に観た清々しさよ

梶原恵美子

◆ 被災せる人等案じて眠る夜

厚き綿入れ 搔卷掛けて

浦野 嘉恵

◆ 人間を生きてよかったありがとう

僕は地球に恩返しする

野崎 隆幸

◆ いささかの苦味含める青柚子の

香りは嬉し吸い物に浮く

川浪 信子

◆ 生涯の端くれを読んでもらいたさに

早熟の友ら次々に去る

尾形 節子

◆ ひとり居て欲しい物なし冬日和

中嶋 清子

◆ 虫喰ひの父の形見の冬羽織

本村 則子

◆ キャンパスに一色入れて年明くる

おおやはな

◆ 打つ鐘の余韻の中に年新た

武富 律子

◆ 朗報を待ちて一人の年の朝

富樫 明美

◆ 年新た雲かき分けて陽が昇る

田代えみ子

◆ 大根を引くと地球に丸い穴

大谷 和

◆ 安心が重い扉を開かせる

西山 残月

◆ 祖父供養ついでに金庫ご開帳

小副川ヨシエ

◆ お年玉ママが開いて恵比須顔

高塚チカ子

川柳 《多久川柳会 互選》

俳句 《大石ひろ女選》

短歌 《麦の芽短歌会 互選》